交流のひろば

情報をお寄せください。市役所広報広聴課　890-6642へ。

純粋な気持ちいつまでも

人 ピープル

現代詩加美未来賞で最高賞

房内　はるみさん（47）

敷島町

現代詩コンクール「第十三回加美未来賞」で、二十六歳以上を対象とする部門の最高賞・縄文賞に選ばれ、先月十五日、宮城県加美町で受賞した。

「規定で二編を応募しましたが、選ばれたのは言葉が自然と出てきた作品の方でした。少し意外に思いましたが、三度目の応募で最高賞をいただき、喜んでいます」

題名は「秋炎」。秋から冬へと移り変わる季節の美しさを織り込みながら、四年前の九月に亡くなった実父の死を描いた。感傷にとどまらない、鮮やかな印象の作品と高く評価された。

「詩では父が亡くなった年の秋をつづっていますが、実際に作ったのは今年です。当時作った詩は気持ちが揺れていて駄目でした。時間を経たことで純粋な気持ちだけが、ろ過されて残ったのでしょう。父がいなくなった現実がしみじみと感じられ、言葉に表すことができました」

詩に興味を持ったのは二十代後半。その後、結婚し会社を退職してからは精神的なゆとりもでき、子育てで忙しくても家事の合間に詩作を続けている。

「以前はテーマを頭の中で膨らませて作っていました。でも、この受賞で言葉は待っていると向こうからやってくるものだと分かったんです。そのためには、純粋な気持ちを持ち続けなければいけないと思っています」

昼間、家の仕事をしながら浮かんだ言葉を夜になって清書する。自分の心が詩になる瞬間だ。

おたより コーナー

「松風座」上映会に思いを込めて

下細井町・浅見貞良62

長い間、市民に親しまれ惜しまれつつ閉館した「オリオン座」。これをいっときでも復活しようという「松風座」上映会に、ロマンを感じ、すぐに清掃ボランティアに参加しました。

昭和三十四年、高校卒業と同時に群馬へ来たわたしに本市は第二の故郷です。道草を食い、回り道をしながらの人生に映画はまさにオアシス。上映準備には、予想に反し若い人が多く、熱心に取り組む姿に心打たれました。

かつて繁華街は、連日人の波、うねりで活気、躍動感にあふれ、その中心的な役割を映画館は果たしていたのです。わたしは横山町交番（現在の千代田町交番）に勤務していたのですが、当時の思い出を反すうし、自分の青春時代を懐かしむことができました。映画全盛期を知らない若い人と一緒に取り組んだ上映会。充実感が胸にあふれ、意義深いものとなりました。

まちのNews

池端町

十日夜祭で麦の豊作祈願

十一月二十三日、池端町公民館で十日夜祭（とおかんや）が行われました。昔は麦まきの時期、旧暦の十月十日に行われた行事です。会場には、小学生からお年寄りまで百人が集合。わらのこん棒を作ったり、もちをついたりしました。その後、子どもたちが「十日夜いいもんだ、朝そば切りに昼団子、夜もち食べちゃ腹だいこ」と歌いながら、わらのこん棒で地面をたたいて回りました。

同町の筑井俊行自治会長は、「地面をたたくのは、モグラを追い払い、麦の豊作を祈願するためです。昔はもちを食べられる数少ない機会だから、楽しみでしたね」と語っていました。